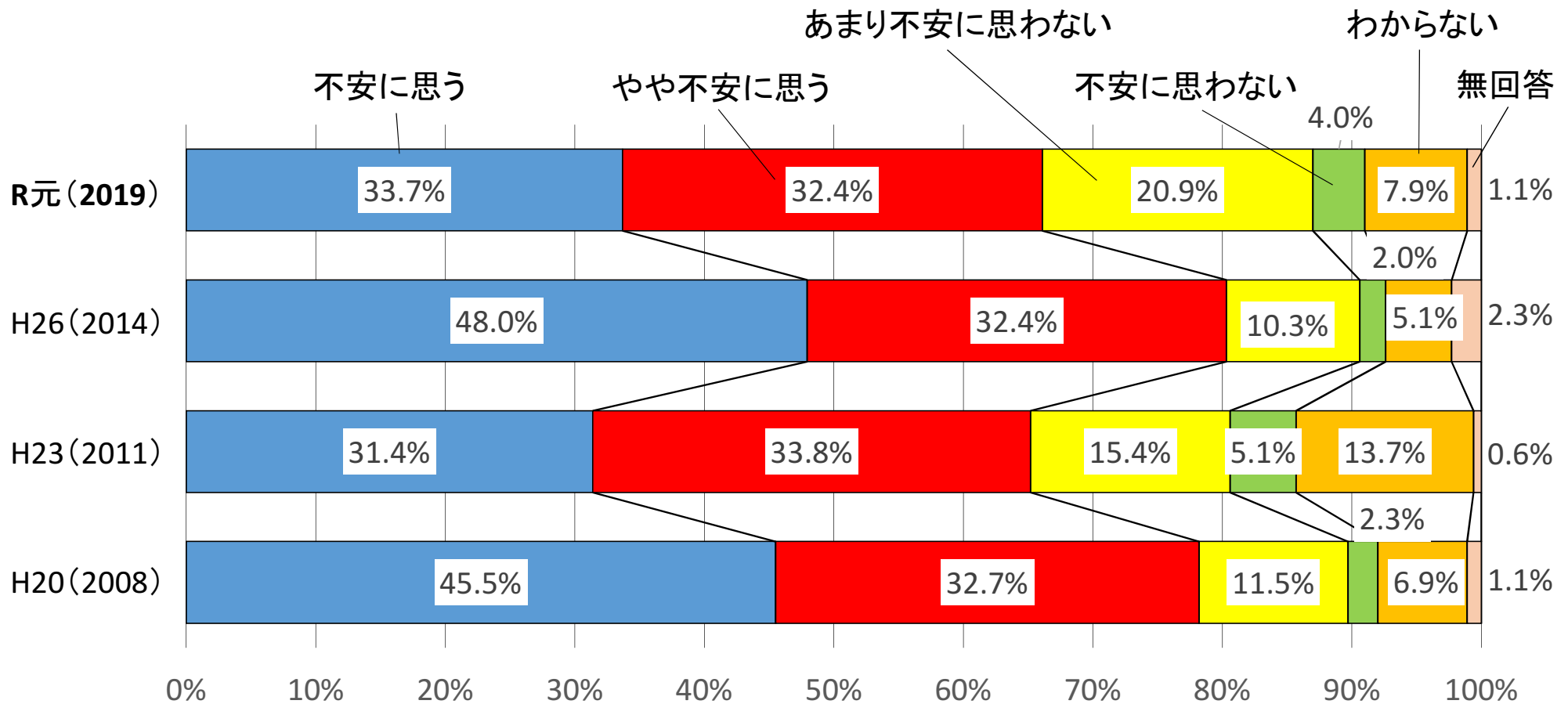


令和元年度（2019年度） 道民意識調査の結果

【調査の概要】

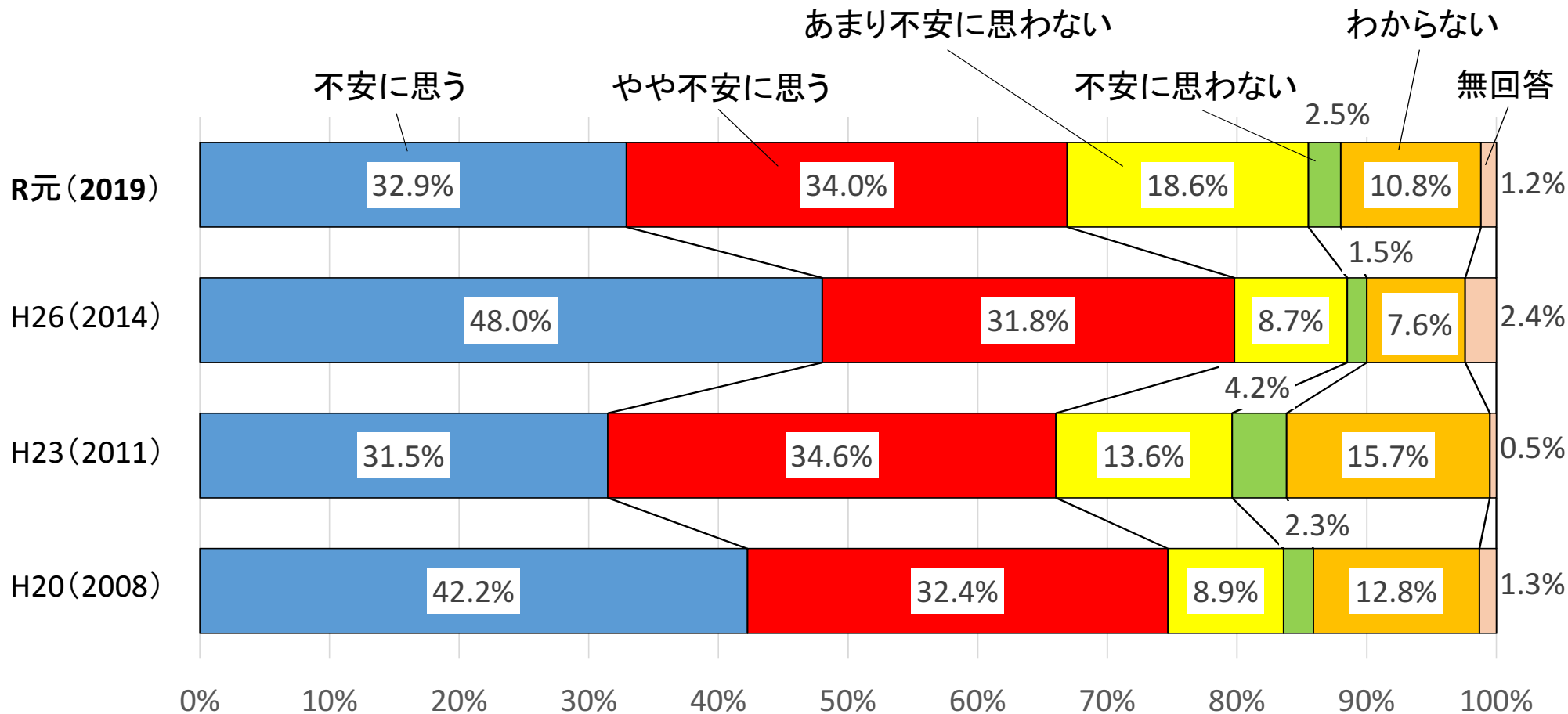
- 調査対象：道内に居住する満18歳以上の個人
- 標本数：1,500サンプル
- 抽出方法：層化二段無作為抽出法
- 調査方法：郵送配布・郵送回収及びweb（スマホ）による回答
- 調査期間：令和元年（2019年）10～11月
- 有効回収数(率)：732（48.8%）

問1 遺伝子組換え作物及びそれを使った加工食品の安全性について、どのように思いますか。



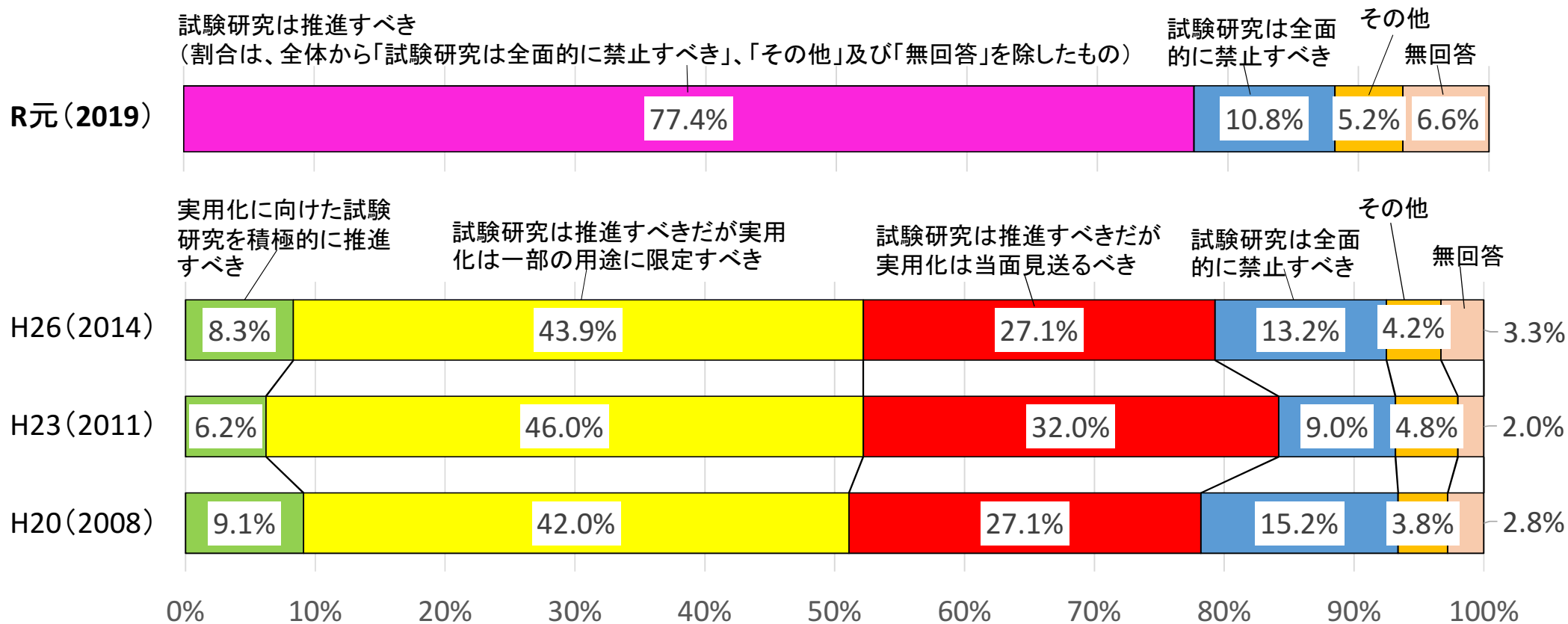
「不安に思う」と「やや不安に思う」で66.1%と、「不安を持っている」との回答が6割を超えている。

問2 遺伝子組換え作物を栽培することによる自然や環境への影響について、どのように思いますか。



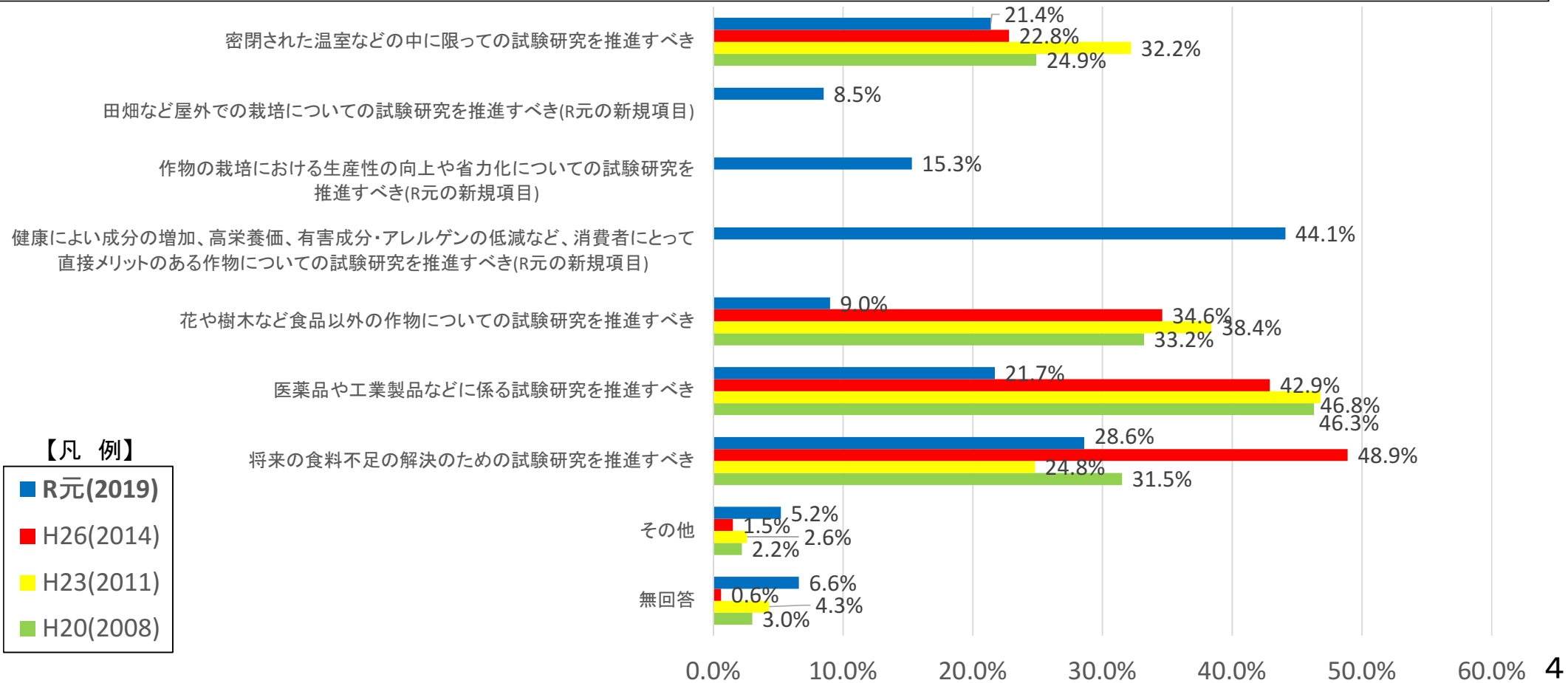
「不安に思う」と「やや不安に思う」で66.9%と、「不安を持っている」との回答が6割を超えている。

問3 遺伝子組換え技術の試験研究について、どのように思われますか。



「試験研究を推進すべき」とする意見は、8割近くを占めている。

問4 遺伝子組換え技術の試験研究について、どのように思われますか。(「推進すべき」と思われる方、複数回答)
 (H20・23・26の設問は、「問3」で「試験研究は推進すべきだが『実用化は一部の用途に限定』または『実用化は当面見送る』を選んだ方を対象に、「どのような試験研究なら行ってもよいと思いますか」)



【凡例】

- R元(2019)
- H26(2014)
- H23(2011)
- H20(2008)

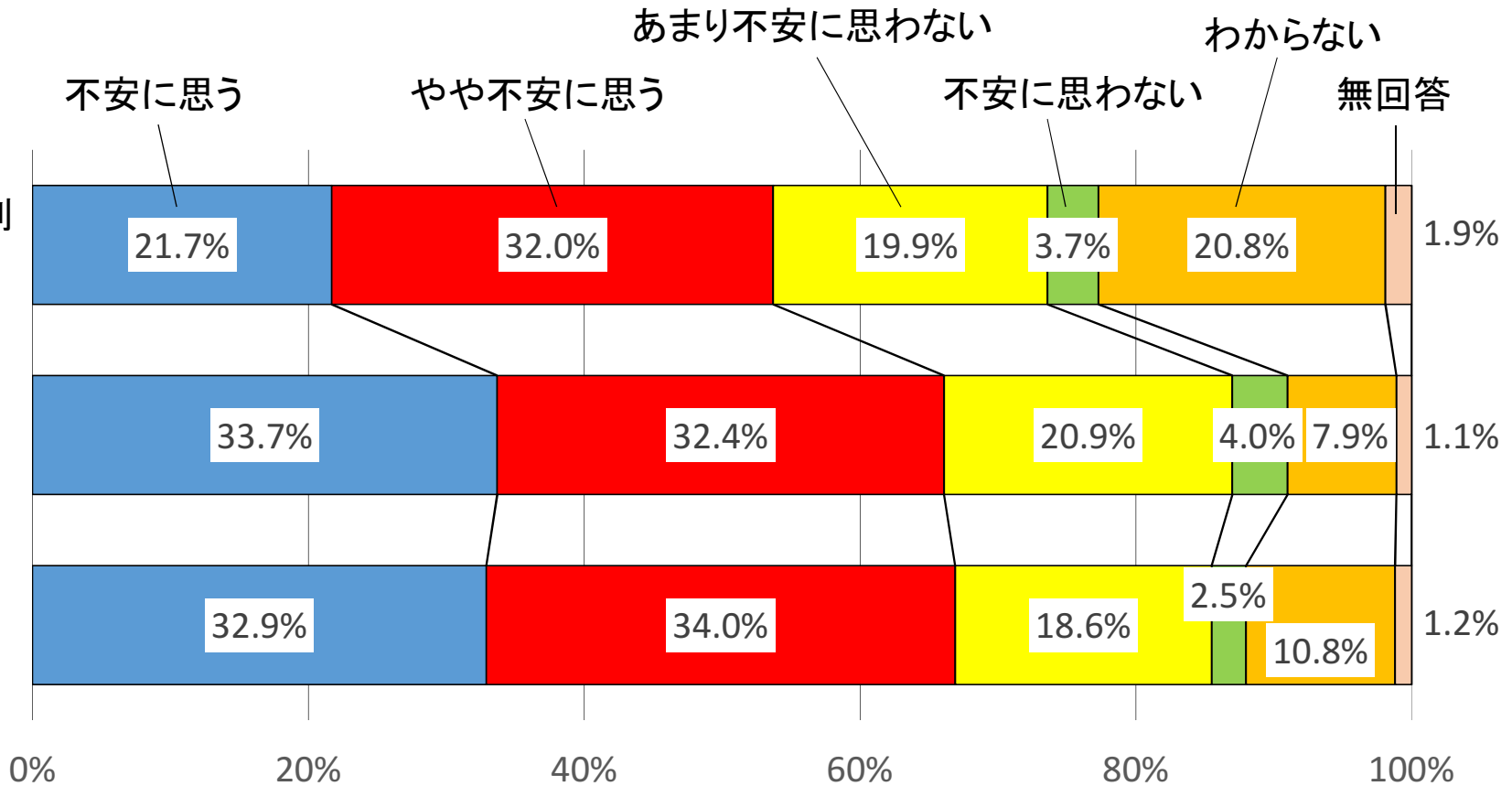
今回、新たな選択項目とした「健康により成分の増加、高栄養価、有害成分・アレルゲンの低減など、消費者にとって直接メリットのある作物についての試験研究を推進すべき」と回答した人は、4割を超えている。一方で、「田畑など屋外での栽培についての試験研究を推進すべき」、「作物の栽培における生産性の向上や省力化についての試験研究を推進すべき」と回答した人は、それぞれ1割前後となっている。

問5 ゲノム編集技術を利用した農作物等の研究開発や食品の流通について、どのように思いますか。

【問5】
ゲノム編集技術を利用した農作物等の研究開発や食品の流通

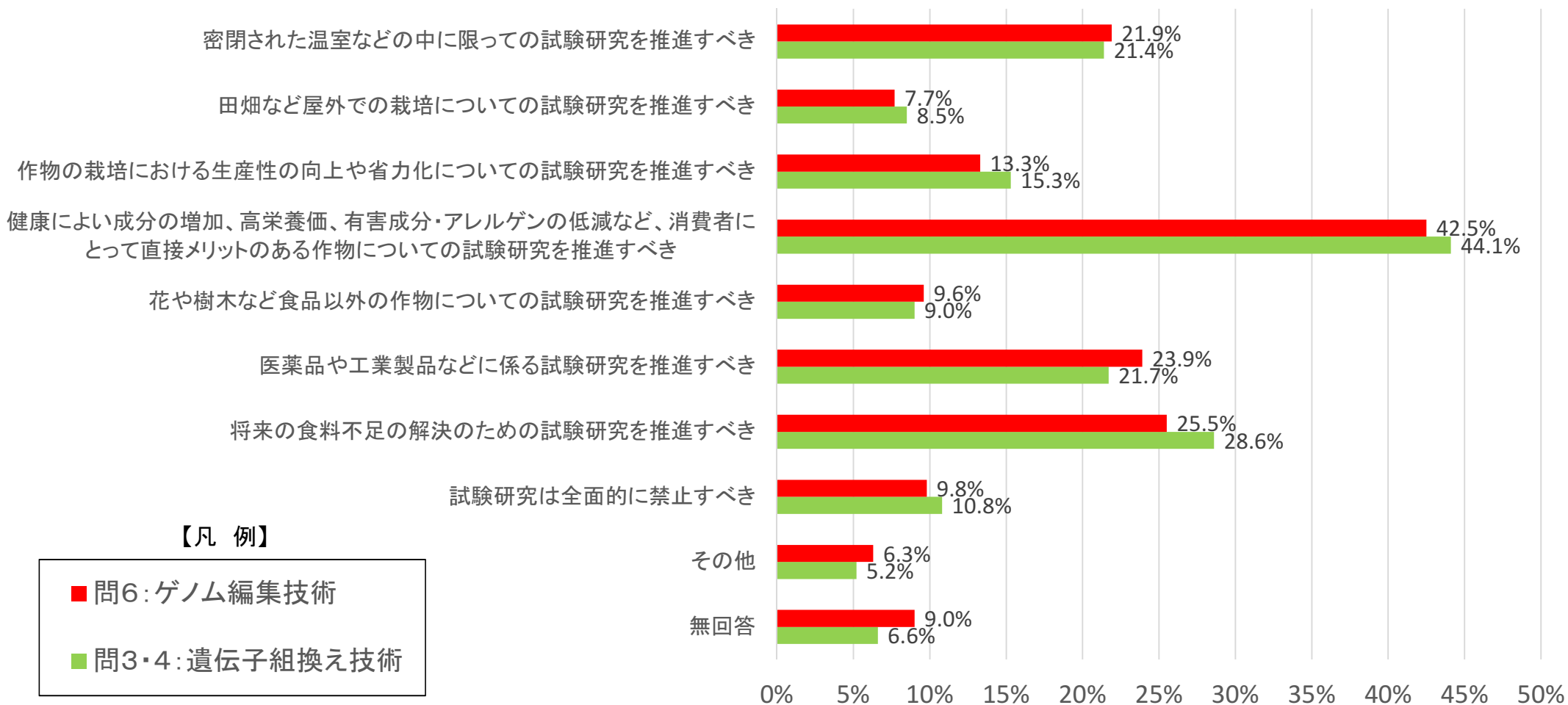
【問1】
遺伝子組換え作物及びそれを使った食品の安全性

【問2】
遺伝子組換え作物を栽培することによる自然や環境への影響



「不安に思う」と「やや不安に思う」で53.7%と、「不安を持っている」との回答が5割を超えているが、遺伝子組換え作物に関係する不安を持っているとの回答と比較すると少ない。一方で、「わからない」との回答は約2割で遺伝子組換え作物と比べると多い。

問6 ゲノム編集技術の試験研究について、どのように思われますか。(「推進すべき」と思われる方は推進すべき各項目から複数回答、それ以外の方は「全面的に禁止すべき」または「その他」の一択)



【凡 例】

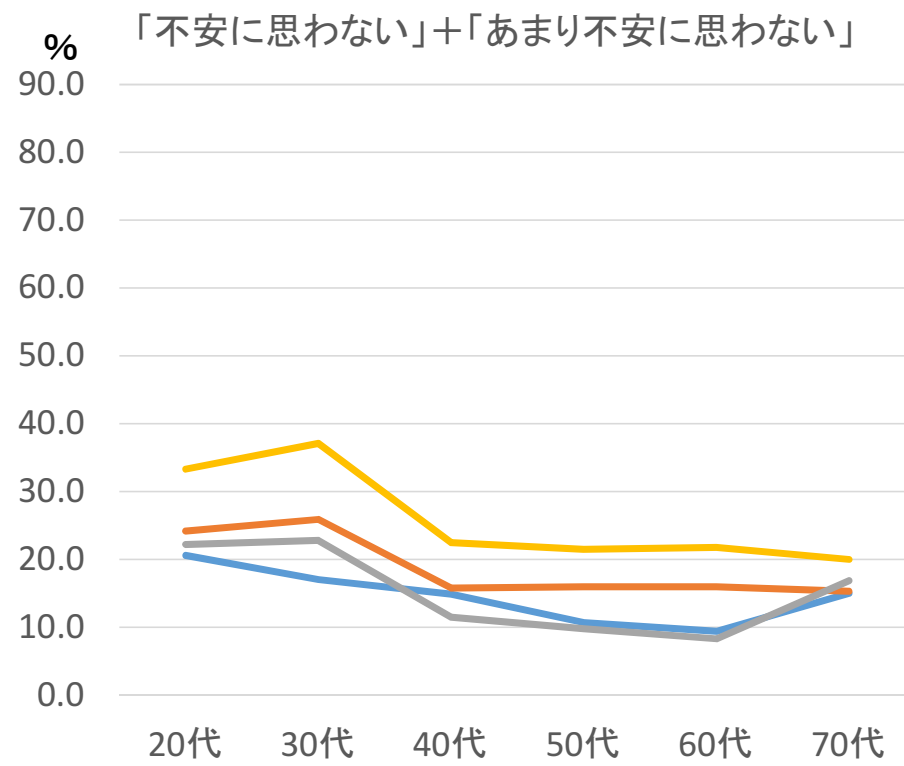
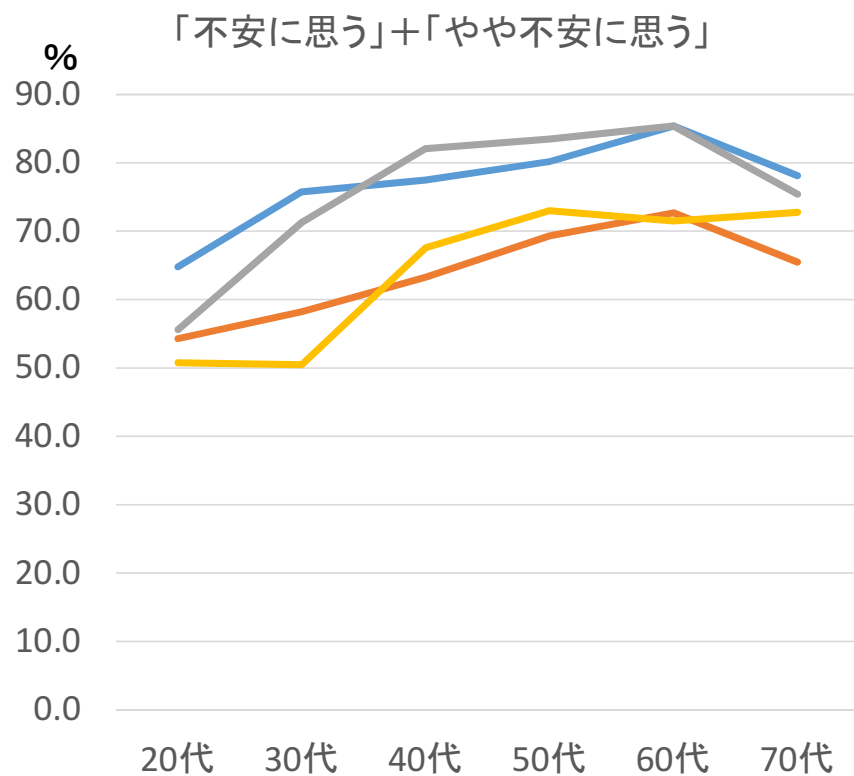
■ 問6:ゲノム編集技術

■ 問3・4:遺伝子組換え技術

各項目の回答の割合は、遺伝子組換え技術の試験研究におけるそれとほぼ同じとなっている。

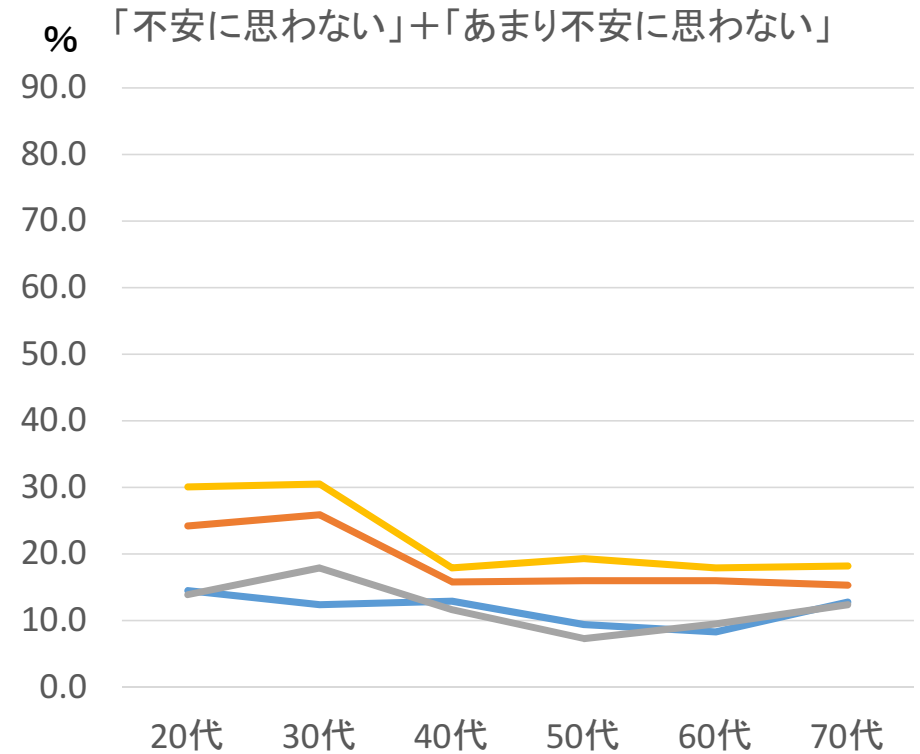
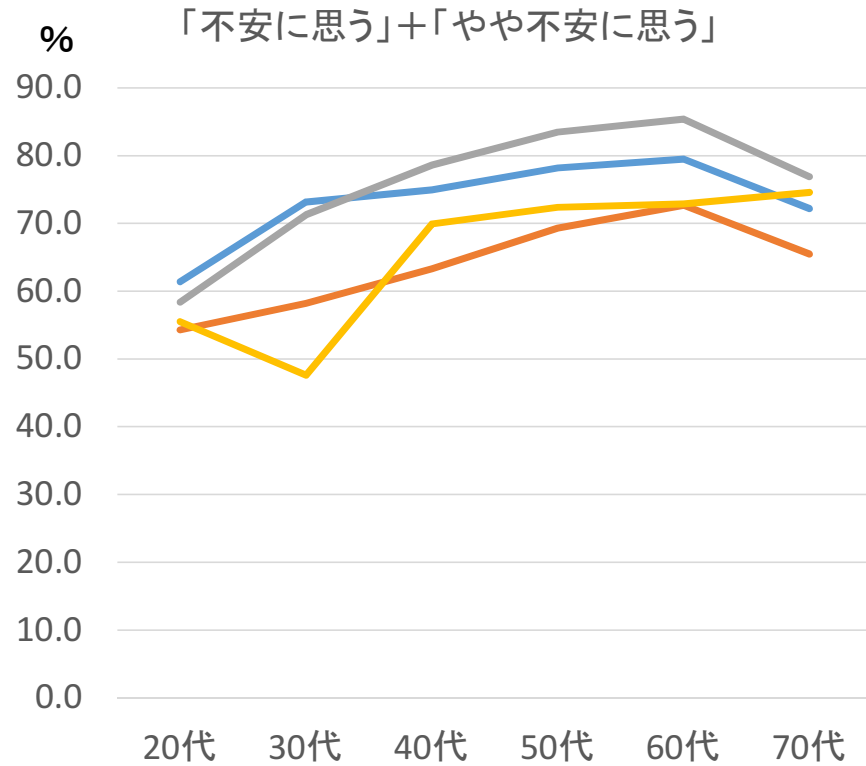
(参考)道民意識調査 年代別における割合の比較

問1 「遺伝子組換え作物及びそれを使った加工食品の安全性について、どのように思いますか」



— H20 — H23 — H26 — R元 ※ R元の20代は、18歳から29歳まで

問2 「遺伝子組換え作物を栽培することによる自然や環境への影響について、どのように思いますか」



※ R元の20代は、18歳から29歳まで